

第6学年 算数科 学習指導案

研究主題（市教研算数部主題）

数学的に考える資質・能力を育むための算数学習のあり方

1 単元名 「資料の調べ方」

2 単元について

（1）学習内容

本単元は、学習指導要領第6学年の内容D「データの活用」の（1）「データの考察」に関する事項を身に付けることができるよう指導するために設定された単元である。

（1）データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）代表値の意味や求め方を理解すること。

（イ）度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。

（ウ）目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。

児童は、第5学年までに文字情報として得られる「質的データ」や数値情報として得られる「量的データ」、時間変化に沿って得られた「時系列データ」について表にまとめたり、グラフに表したりすることでデータの特徴や傾向を捉えることを学習してきた。第6学年では、目的に応じたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決を知りできるようになることや、問題に対して自分なりの結論を出したり、結論について批判的に捉え妥当性を考察したりできるようになることがねらいである。また、その過程を通じて、量的データについての分布の中心や散らばりの様子を考察することができるようにすることをねらいとしている。ここで、育成される資質・能力は中学校第1学年での度数分布表を表す表やヒストグラムなどを用いて問題解決する学習の素地となるものである。

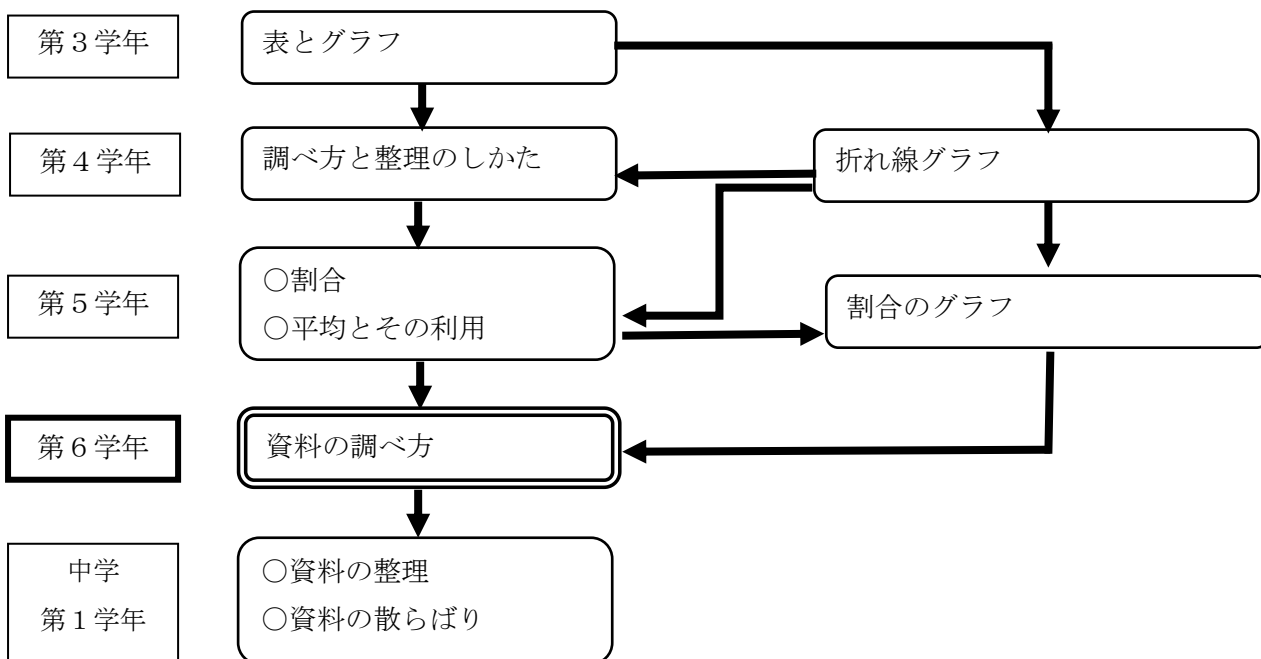
新学習指導要領になり、旧学習指導要領の「D数量関係」領域の中の統計的な内容が、「Dデータの活用」という新しい領域として独立した。本単元でねらいとしている「統計的な問題解決の方法について知ること」は、以前でも扱ってきた内容であり、いわば「データの活用」の基礎・基本となるものである。本単元の学習においては、統計的な問題解決である「問題－計画－データ－分析－結論」という五つの段階を児童が常に意識できるように学習を展開していく。その一方で、「問題に対して自分なりの結論を出したり、結論について批判的に捉え妥当性を考察したりすること」は以前までは

それほど重視されてこなかった内容であり、学習指導要領が変わって新しく強調されたデータの活用領域で育む数学的に考える資質・能力である。これは、データの活用の基礎・基本である統計的な問題解決の方法を児童が自分事として用いたときにより達成されるねらいであり、実際に活用してみるという体験がデータの活用の学習では大事であると考え。そこで、本単元の後半では、児童が日常生活や身の回りの事象の中から問題を見付け、自分なりにデータを分析して導き出した結論について、既習の数学的な見方・考え方を基に内容を検討し直すような活動を行う。統計的な問題解決は他教科の学習や児童の生活に関わる事柄でも用いることができるため、その良さを感じて進んで学習や生活に生かそうとする態度も養いたい。

本単元における教科書の指導計画は、統計的な問題解決の方法について知り、度数分布表やヒストグラムなどを読んだりかいたりした後に、日常生活や身の回りの事象の中から自分たちで調べたいことを決めて、資料を表やグラフに整理し、調べたことからわかったことを話し合うといった流れである。しかし、児童は問題に対して自分なりの結論を出したり、結論について批判的に捉え妥当性を考察したりする経験が少ない。このまま学習を展開すると、自分たちが出した結論について、また友達が提示した結論について、別の観点や立場から本当にそう言えるかどうかの話し合いが充実できないのではないかと考える。そこで、児童が具体的にどのようなことに着目して自分や友達の結論を批判的に考えればよいのか考える学習が必要であると考え、指導計画の第8時に組み込むこととした。

本時では、「ある2つの学級が1週間家庭学習に取り組んだ時間の記録」に関するデータを自分なりに整理し、その特徴や傾向、代表値などを基に、どちらの学級に賞状を贈るかを検討する学習を行う。その中で、データの収集や整理、分析の方法や自分なりの結論の妥当性について、「本当にこの決め方と結論でよいのかな？」と問い、内容を再度検討する中で、批判的に考察する力を高めることをねらいとしている。「本当にそのように決めてよいのかな?」、「この調べ方でよかったのかな?」、「別の立場から考えてみると?」など、批判的に考えるキーワードとなる言葉はカードや掲示物などで可視化して、児童がより意識できるようにしていきたい。

(2) 既習との関連



3 単元の目標

- 代表値の意味や求め方と度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解し、適切に用いることができるとともに、目的に応じてデータを収集したり、適切な手法を選択したりするなどといった統計的な問題解決の方法を理解することができる。 (知識及び技能)
- 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について多面的・批判的に考察することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 日常の事象から見出した問題を統計的に解決する良さに気付き、データや問題解決方法、及びその分析結果を生活や学習に進んで活用しようとする。 (学びに向かう力・人間性等)

4 指導計画 (1 1時間扱い+総合的な学習の時間 1時間)

小単元	時 間	学習活動	主な評価規準
課題設定 資料の整理	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3組のソフトボール投げの記録を見て、調べてみたいことを話し合う。 ・ 平均値や最大値、最小値、範囲で記録を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな数値に着目して、資料の比べ方を考えようとしている。 【態度】 ・ 資料の特徴を調べるときに、平均値、最大値、最小値、範囲を用いることがあることを理解している。 【知・技】
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトボール投げの記録を数直線に表し、散らばりを調べる。 ・ ドットプロットを使って、資料の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の散らばりをドットプロットに整理することができる。 【知・技】 ・ ドットプロットを使って、資料の特徴を考えたり説明したりしている。 【思・判・表】
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドットプロットの考察を通して、中央値や最頻値の意味と求め方について知る。 ・ ソフトボール投げの記録を代表値で比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散らばりの様子を調べる必要性について考え、資料を統計的に考察することができる。 【思・判・表】 ・ 資料の特徴を調べるときに、中央値や最頻値を用いることがあることを理解している。 【知・技】
散らばりの様子を 表す表・グラフ 資料の調べ方 を使って	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトボール投げの記録をドットプロットを基に度数分布表に表して、資料の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を度数分布表に整理したり、度数分布表を読み取ったりすることができる。 【知・技】 ・ 度数分布表を使って、資料の特徴を考えたり説明したりしている。 【思・判・表】

	5	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール投げの記録を度数分布表を基にしてヒストグラムに表し、資料の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の散らばりをヒストグラムに整理し、グラフを読んだりかいたりすることができる。【知・技】
資料の調べ方を使って	6	<ul style="list-style-type: none"> 男女別、年齢別人口の割合を表すグラフを見て、工夫されていることに気付く。また、グラフからわかることを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のグラフを関連付けて、どのようなことがわかるかを考えたり説明したりしている。【思・判・表】
	7	<ul style="list-style-type: none"> ある2つの学級が1週間家庭学習に取り組んだ時間の記録を基に、課題を解決するため既習を生かしてデータを整理したり、柱状グラフに表したりする。 データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題に対する自分なりの結論を判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、目的に応じてデータを整理したり、表や柱状グラフに表したりすることができる。【知・技】 データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて、問題に対する自分なりの結論を考えることができる【思・判・表】
	8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習において自分なりに導き出した結論やその根拠となるデータの見方を学級全体で共有し、自分の主張を再度検討する。また、与えられたデータの質やその収集方法の妥当性を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 判断の仕方や結論について別の観点や立場から検討し、目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を考えたり、説明したりしている。【思・判・表】 データの質や収集方法の妥当性について批判的に考えている。【思・判・表】
	9	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や身の回りの事象の中から問題を見付け、どのような資料に関するデータを集めるか、グループで計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や身の回りの事象の中から問題を見付け、どのように資料を集めるかなどについて主体的に考えている。【態度】
	総合的な学習の時間で行う	<ul style="list-style-type: none"> 前時に計画した内容を基に、ギャップ端末の Google フォーム等の機能を使ってアンケートを取ったり、インターネットで調べたりしながら資料を整理する。また、Google スライドを活用し、情報を共有したりわかったことや気付いたことをグループ間で伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料の内容を適切に読み取り、目的に応じて分類整理して考えることができる。【思・判・表】 複数の資料やデータを関連付け、読み取れる内容を主体的に考えて伝えようとしている。【態度】
	10	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに調べてわかったことを Google スライドにまと 	<ul style="list-style-type: none"> データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて調べたことを

		め、他のグループと伝え合ったり、内容の妥当性について話し合ったりする。 ・話し合ったことを基に、修正して資料からわかったことを再度まとめる。	説明したり、内容の妥当性について批判的に考察したりしている。 【思・判・表】 ・統計的な問題解決の良さに気づき、学んだことをこれからの生活や学習に活用しようとしている。 【態度】
学びのまとめ	1 1	・学習内容の理解を確認する。	

5 本時の指導

(1) 育成する資質・能力

○思考力・判断力・表現力等の育成

データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。

(2) 働かせる数学的な見方・考え方

○判断の仕方や結論について別の観点や立場から検討し、目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を判断すること。

○自分が出した結論について信頼できるのかどうか、その妥当性を批判的に考察すること。

(3) 数学的な見方・考え方を働かせるための手立て

<手立て1> 捉え方次第で結論が異なるデータの工夫

問題解決の過程や結論について異なる観点や立場などから捉え直してみたり、誤りや矛盾はないかどうか妥当性について批判的に考察したりするためには、扱うデータの質がとても重要である。全員が同じ結論や根拠に行き着くようなデータでは、互いの意見の妥当性についていろいろな角度から検討する必要性があまり生まれてこない。多面的な考察を実現するには、比較するデータの傾向が異なり、見方によって様々な結論が得られるようなものにする必要があると考える。個々のデータの見方にズレが生まれるようなデータを基に、児童が自分なりの結論について互いに意見を主張し合い、その後、学級全体でデータの見方を整理して再度自分の結論を考え直す中で、多面的に考察するという数学的な見方・考え方が働くことだろう。

本時では、ある学校で各学級が1週間取り組んだ家庭学習の時間を基に、「学年で一番家庭学習をよくがんばったといえる学級は1組と2組のどちらだと考えるか」、散らばりの様子や代表値などを基に自分なりの結論を考えるとといった学習を行う。その上で、本時で扱う素材はデータの見方によって結論が異なるように次のような工夫をしている。

データの見方	組	1組	2組
一人あたりの平均値		430時間	465時間
一番多い人の時間（最大値）		720時間	1230時間
一番少ない人の時間（最小値）		120時間	0時間
組の真ん中の値（中央値）		435時間	405時間
一番人数が多い階級		400時間以上500時間未満	300時間以上400時間未満
平均値以上の人数の割合		約52%	約39%
0時間の人数の割合		0%	約9%
1000時間以上 取り組んだ人の割合		0%	約9%
散らばりの様子		平均値あたりにデータが集まっている。	平均値よりも小さな階級にデータが集まっている。700時間以上に所々散らばりもある。

※2つの学級の代表値や散らばりの様子などを比較したとき、優れている方に太字の下線を引いている。

<手立て2> 複数のデータの見方を共有し、判断の仕方や結論について別の観点や立場から考えを深める場の設定

前時の学習において、「学年で一番家庭学習をよくがんばった学級に賞状を贈る。あなたなら、1組と2組のどちらの学級を表彰するか」という課題を解決すべく、児童は既習内容を振り返りながら自分なりにデータを分析して内容を整理したり柱状グラフ等に表したりしている。またその後、整理した表や柱状グラフを基に結論とその根拠を考えている。児童はこの時点で課題に対する自分なりの結論とその根拠を考えてはいるが、統計的な問題解決の段階の「データ分析ー結論」を1時間の中で行っているため、算数の苦手な児童はおそらく平均値や中央値などの一部の代表値を求めるのに精一杯で、その一部の根拠を基にして結論を出すだけで終わっていることだろう。そのため、様々な視点から多面的にデータを考察したり、目的を意識しながら信頼できるデータの見方を選択したりすることはできていないと考えられる。

そこで本時では、まず前時に自分なりに考えた結論とその根拠を発表させ、全体で考え方を共有する。その際、どんなデータの見方をしたか観点ごとに表で整理してまとめながら進めることによって、学級全体で複数のデータの見方を共有することができるだろう。

次に、表で整理したデータの見方を観点ごとに比較しながら、1組と2組の集団の特徴をそれぞれ考える。「複数あるデータの見方の中で、1組（2組）が、2組（1組）より優れているのは何か?」、「1組（2組）の特徴はどんな所か?」と教師が問いかけ、児童が分析した結果から分かることを話し合う中で、1組と2組の集団の特徴がデータの見方を根拠に具体的に見えてくるだろう。この時、児童から出てきた1組と2組の集団の特徴を表す言葉は、観点ごとに整理した表の近くに板書していつでも振り返れるようにする。

その上で、前時の最後に自分なりに導き出した結論とその根拠を振り返り、再検討する場を設ける。ここで大切にすることは、「目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を判断すること」

である。「平均値が高いから2組のほうがよい」と、ある1つのデータの見方を根拠に結論を判断するのではなく、複数のデータの見方を基に結論について別の観点や立場から考えて検討し、より妥当な結論について追究を深めていくことが大切である。そこで、児童が自分なりに1組か2組か結論を決めたら、観点ごとに整理した表を振り返り、自分なりの結論を支える複数のデータを組み合わせて判断の根拠を深められるようにする。もし、結論が決まらない児童がいたら、黒板に1組と2組の集団の特徴が言葉で書かれているので、それを基に「どちらの学級に賞状を贈りたいか？」と問いかけ、結論を判断させる。その上で、複数のデータの見方の中から結論を支えるデータを組み合わせて判断の根拠を考えていけばよいだろう。この活動によって、ある1つのデータの見方からすぐに結論を出すのではなく、分析した結果や結論について、別の観点や立場から検討して考えを深めることの大切さに気付かせていきたい。

<手立て3> データの質や収集方法について振り返り、話し合う活動

本時や前時の学習において、児童に示したデータはある1週間における1組と2組の家庭学習の時間のみである。問題を解決するために、どのようなデータを集めるとよいのか、そのデータの質やデータの収集方法については児童に考えさせていない。そこで、本時の学習の終末に、「本当に、このデータだけで結論を決めてよかったのか？」と児童に問いかけ、データの質や収集方法の妥当性について話し合う活動を取り入れる。これにより、「1回だけの調査で決めるのではなく、もっと調査の回数を多くした方がよいと思う」、「1週間という期間は短いから、もう少し長い期間調査をするべきだと思う」、「家庭学習に取り組んだ時間だけでなく、どんな内容の家庭学習をしたのかを調べる必要があると思う」などといった別の観点から自分の結論を振り返り、データの質や収集方法の妥当性について批判的に考察することの大切さを気付かせていきたい。

(4) 本時の目標

- 判断の仕方や結論について別の観点や立場から検討し、目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を判断することができる。
- データの質や収集方法の妥当性について批判的に考えることができる。

(5) 本時の評価規準

- 判断の仕方や結論について別の観点や立場から検討し、目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を考えたり、説明したりしている。【思考・判断・表現】
- データの質や収集方法の妥当性について批判的に考えている。【思考・判断・表現】

(6) 展開 (8 / 11 本時は2時間続きの2時間目)

過程	学習内容と活動	○指導や支援の手立て ◆評価	資料・教具
<p>前時</p> <p>問題把握</p>	<p>1 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ある学校では、各学級の子が取り組んだ1週間の家庭学習の時間を基に、各学年で一番家庭学習をよくがんばったといえる学級を表しようすることになりました。</p> <p>あなたなら、1組と2組のどちらの学級を表しましょうか。</p> </div> <p>2 学習問題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どちらの学級を表しようするか、データを基に判断しよう。</p> </div>	<p>○統計的な問題解決の五つの段階を示した掲示物を提示し、それを基に学習を進めていくという見通しを児童がもてるようにする。</p> <p>○1組と2組の1週間における家庭学習の時間を比較し、どちらに賞状をあげるべきかについて、データを基に考えていくことを確認する。</p>	<p>統計的な問題解決の段階を示した掲示物</p> <p>1組と2組の家庭学習の記録を拡大した表</p>
<p>自力解決</p>	<p>3 課題を解決するために、既習の内容を基にデータを分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データが多いから整理する必要があるよ。 ・それぞれの学級の平均値を求めてみよう。 ・柱状グラフで2つの学級の散らばりを見てみよう。 <p>4 問題に対する自分なりの結論を考え、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2組の方が、平均値が高いから2組を表彰するべきだと思う。 <p>5 自分なりの結論を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1組の方がよい。 ・多数決では決められない。 ・皆がどんな方法で考えたかを知りたいな。 	<p>○今までに学習したデータの見方を基にデータを分析するように伝える。</p> <p>○どのように分析すればよいか、考えが思い浮かばない児童や、一つの考え方で止まっている児童には、ギガタブ端末の発表ノートに保存してある過去の授業履歴を見たり、ワークシートにあるQRコードリーダーをカメラ機能で読み取ったりして考えるように声をかける。</p> <p>◆課題を解決するために、目的に応じてデータを整理したり、表や柱状グラフに表したりすることができる。【知・技】</p> <p>○自分が分析した内容を根拠にして自分なりの結論を判断するように伝える。</p> <p>◆データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて、問題に対する自分なりの結論を考えることができる【思・判・表】</p> <p>○データを基に、1組と2組のどちらの学級を選んだかを児童に問いかける。その上で、「同じデータなのにどうして結論が分かれてしまったのか?」、「結論を多数決で決めてよいのか?」と発問する中</p>	<p>電卓</p> <p>柱状グラフ等の用紙</p> <p>柱状グラフが書けるサイト</p> <p>考えを記述するワークシート(表)</p>

	6 次時の学習の見通しをもつ。	<p>で、友達がどのようなデータの見方をしたのか、全体で共有する必要があることに児童が気付けるようにする。</p> <p>○次回は、友達がどのようなデータの見方をしたのかを全体で共有し、より根拠のある結論を判断できるように考える学習であることを伝える。</p>	
本時	1 前時の学習を振り返る。	<p>○前時の学習を振り返りながら、本時は、友達がどのようなデータの見方をしたのかを全体で共有し、より根拠のある結論を判断できるように考える学習をすることを確認する。</p> <p>○統計的な問題解決の五つの段階を示した掲示物を活用し、今回は「分析」「結論」に焦点を当てて学習を進めていくという見通しを児童がもてるようにする。</p>	<p>前時の掲示物</p> <p>統計的な問題解決の段階を示した掲示物</p>
	2 学習問題を立てる。	<p>○前時の学習問題の言葉の前に、本時の目標となる言葉を付け足して児童に提示する。</p>	
	<p>複数のデータの見方を組み合わせ、より根きよをもって、どちらの学級を表しようするか、データを基に判断しよう。</p>		
比較検討	<p>3 前時の学習において自分なりに考えた結論とその根拠を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均値を求めると1組が430時間で、2組が465時間だから2組を選びました。 ・柱状グラフを見ると平均値の近くにデータが集まっているから、皆が安定して家庭学習に取り組んでいる1組を選びました。 ・2組には1000時間以上家庭学習に取り組んだ人がいるから、最大値の大きい2組に賞状を贈るべきだと思います。 	<p>○今までに学習した代表値や散らばりの様子、階級やその度数などに着目して自分の考えを話すように伝える。</p> <p>○どちらが正解というのではなく、なぜその学級を選んだのか、どんなデータを根拠にして考えたのかに着目して話したり聞いたりするように助言する。</p> <p>○前時に児童が自分なりに整理した表やグラフを掲示し、個々のデータの分類や整理の仕方の違いに気付かせる。</p> <p>○多様な観点を共有したり、観点ごとに後で比較しながら集団の特徴を分析したりできるように、それぞれの児童の考え</p>	<p>前時で使ったワークシート（裏）</p> <p>書画カメラ</p> <p>データの見方を整理するための表</p>

<p>・ 2組は0時間の人が2人いる。だから1組の方が皆が学習に取り組んでいるといえるのではないかな。</p> <p>4 どんなデータの見方があったかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均値で比べる。 ・ 最大値、最小値で比べる。 ・ 中央値で比べる。 ・ 一番人数が多い階級で比べる。 ・ 散らばりの様子で比べる。 <p>5 複数のデータの見方を観点ごとに比較しながら、1組と2組の集団の特徴をそれぞれ考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1組は、平均値や中央値のあたりにデータが集まっている特徴がある。一人一人がある程度しっかり家庭学習に取り組んだ学級と言えそう。 ・ 2組は、700時間以上に散らばりがある点で1組とは違う。多くの時間、家庭学習を頑張った人がいるという良さがこの学級にはある。 <p>6 1組と2組の集団の特徴を参考にしながら、問題に対して自分なりの結論とその根拠を再度考える。</p> <p>7 自分なりの結論とその根拠を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1組は、個人差があっても一人一人がある程度しっかり家庭学習に取り組んでいる学級だと思う。データを見ると、平均値は2組より低いけれ 	<p>方を観点ごとに表に整理する。</p> <p>○それぞれの児童がどのようなデータの見方をしたのかを問い返し、統計的な問題解決をする上で大切になる数学的な見方を意識できるようにする。</p> <p>○立場によってデータの見方や考え方は異なることを確認する。</p> <p>○複数のデータの見方を観点ごとに比較する際に、平均値や中央値などの2つの学級の代表値で、優れている方の値を色チョークで囲み、集団の特徴を視覚的に分かりやすくする。</p> <p>○どちらか片方の学級が、もう一方の学級より優れているデータの見方は何かを確認する中で、1組と2組の学級の集団の特徴はどんな所か、それぞれの学級の良さを、データを基に考えるように児童に声をかける。</p> <p>○感覚ではなく、データを根拠にして判断するという論理が重要であることを確認する。</p> <p>○本時でデータの見方について整理した表を基に、自分なりの結論を支える複数のデータの見方を組み合わせて、判断の根拠とするように助言する。</p> <p>○話す側には、複数のデータの見方を組み合わせて、自分なりの結論とその根拠を話せばよいのだと声をかける。また、聴く側には、結論の正解・不正解に注目するのではなく、結論を支える根拠が適切かどうかに着目して聴くように声をか</p>	<p>考えを記述するワークシート(裏)</p>
--	--	-------------------------

ま と め	<p>ど、散らばりを見ると1組は平均値あたりにデータが集まっている。中央値は435時間で2組を上回り、平均値以上学習に取り組んだ人数の割合は約52%である。だからぼくは1組に賞状を贈りたい。</p>	<p>ける。</p> <p>○自分なりの結論が前時から変わった児童がいたら、優先的に取り上げる。</p> <p>◆判断の仕方や結論について別の観点や立場から検討し、目的に応じた信頼できる根拠を基にして結論を考えたり、説明したりしている。</p> <p>《発言・ワークシート》【思・判・表】</p>	
	<p>8 データの質や収集方法の妥当性について考える。</p> <p>・家庭学習に取り組んだ時間だけでなく、どんな内容の家庭学習をしたのかを調べる必要があると思う。</p> <p>9 本時の学習でわかったこと、大事だと思ったことをまとめる。</p>	<p>○「本当に、このデータだけで結論を決めてよかったのか？」と問いかけ、データの質や収集方法の妥当性に目を向けてデータを検討するように伝える。</p> <p>○もし自分の学校でやるとしたら他にどんな調査をするとよいのかを考えるように声をかける。</p> <p>◆データの質や収集方法の妥当性について批判的に考えている。《発言》</p> <p>【思・判・表】</p> <p>○本時の学習を基に、データを分析したり自分なりの結論を出したりするとき大事なことは何かを問いかける。</p>	
	<p>結論を判断するときは、複数のデータの見方を組み合わせたり、信らいてるかどうかが、一度立ち止まって考えたりすることが大切である。</p>		
<p>10 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○次回からは、自分たちで調べたいことを決め、表やグラフに整理し、わかったことを伝え合う学習をすることを伝える。</p>		